☆年間第3主日（1月22日）の聖書朗読☆　※主任司祭からの解説があります。

第一朗読（イザヤの預言　８章２３節-９章３節）

先に、ゼブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けたが
後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた
異邦人のガリラヤは、栄光を受ける。
闇の中を歩む民は、大いなる光を見
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。
あなたは深い喜びと大きな楽しみをお与えになり
人々は御前に喜び祝った。
刈り入れの時を祝うように
戦利品を分け合って楽しむように。
彼らの負う軛、肩を打つ杖、虐げる者の鞭を
あなたはミディアンの日のように折ってくださった。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙Ｉ１章10-13,17 節）

兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし思いを一つにして、固く結び合いなさい。わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。あなたがたはめいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言い合っているとのことです。キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

福音朗読（マタイよる福音書　4章　12-23節）

　イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」 そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

　イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　厳しい寒さがやってきました。例年にない厳しい寒さだそうです。それでも春はもうすぐそこに来ています。もうしばらく寒さを楽しみましょう！？
さて今日は「神のことばの主日」と定められています。フランシスコ教皇様の意向で 2019 年 9 月 30 日の聖ヒエロニムスの帰天 1600 年の記念日に発布されました。「聖書を知らぬことはキリストを知らぬこと」という聖ヒエロニムスの言葉を引用したフランシスコ教皇様は「聖書はその言葉に耳を傾けるものに、真の堅固な一致に達するための道を示す」と語られ、教会一致を祈るこの時期に「神のことばの主日」を定められたのです。そして今日の午後、足立地域のキリスト教会が日本キリスト教団西新井教会で一致のための祈祷

集会が行われます。どうぞお祈りください。それでは今日の朗読を考えていきましょう。

第一朗読（イザヤの預言　８章２３節-９章３節）

イザヤは異邦人のガリラヤの栄光について話しています。当時は外国の勢力によって滅ぼされ虐げられていましたが、そのガリラヤは栄光を受け、彼らが負っていた軛、肩を打つ杖、虐げるものの鞭を折ってくださると。それは救い主である「あなた」が来られるときに実現するのです。それまでを辛抱強く耐え忍びましょうと呼び掛けています。このイザヤ書に呼応するのが今日の福音の個所です。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙Ｉ１章10-13,17 節）

使徒パウロはコリントの教会に手紙を出した直接の動機について冒頭で述べています。すなわちコリントの教会にある分裂についてです。「あなたがたの間に争いがあると聞いています」と。アポロやケファ、そしてパウロにつく者があったようです。イエスの福音を述べ伝える過程でのアプローチの違いがことさらに強調されてしまっていたのかもしれません。そのような派閥的な争いは救い主であるイエスの姿を見失わせてしまうものです。初期の初代教会ですらこのような状態でしたから、あとの時代に大きな分裂が生じてしまったのもあり得ることでした。しかしそのような困難な時代にあっても一致を促し、一致のために働く人たちがいてイエス・キリストの教会は進んでいくのです。

福音朗読（マタイよる福音書　4章　12-23節）

マタイはイエスの宣教活動の始まりを伝えています。そしてその初めにイザヤが伝えた救いの曙を読んでいます。ガリラヤ、そこはイエスの宣教活動の拠点でした。ガリラヤ湖のほとりにあり、そのそばには小高い丘があり、イエスがさまざまな話をして父である神の心を人々に伝えた場所でした。水のある場所、それはその土地に潤いを与え気候を穏やかにします。内陸

のナザレに住んでおられたイエスはきっとそのような穏やかな土地を気に入られたのでしょう。そして湖のほとりを歩きながら、これからどのようにして父である神の心を人々に話そうかと思い巡らしておられたのでしょう。ふと見るとそこに舟を出して網を打っている漁師の二人を見つけます。そして声を掛けます。「ついてきなさい」。二人は付いていきます。また別の二人の兄弟にも声を掛け、二人もついていきます。ある意味有無を言わせないイエスの言葉です。弟子となったこの四人は何か良いことがあるのではとついていったのですが、その期待は裏切られることはなかったのです。神のことばの強さと、裏切らない神のことばがそこにありました。

P.S.

２月の第一土曜日から毎月「聖体礼拝の時間」を行うことになりました。２時から３時までの一時間です。参加は希望者どなたでも。内容はご聖体の顕示、ロザリオの祈り他、個人の祈り、ご聖体による祝福」です。祈りは個人でもできますが、集まってご聖体を囲み祈ることは大変重要なことです。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光